

下商物語

その三

同窓会館のはなし

教諭 林 俊行

みなさんは、市内丸山町三丁目（日和山公園付近）に同窓会館があることをご存知ですか。

第二次世界大戦時に、下関は空襲を受け市内の中心地が大変な事態となりました。戦後、市内在住の同窓生の多くは訪問客の対応ができず、また遠方から同窓生が下関に戻っても宿泊する旅館もかなり少なかったことから、当時の同窓生の多くの方から「我らの会館同窓会館があれば」との思いが募り、募金活動を高見京介氏（大正八年卒）を委員長として、「同窓会館建設趣意書」が全国の同窓生に配布され、昭和二十五年に寄付金によって購入したものです。その物件は、元下関市長松井借助氏の旧邸で、土地352坪・建物

133坪の立派なもので、現在は「下商同窓会館日和山荘」として同窓会活動の拠点となっています。

記録によれば、昭和二十四年に下商が創立六十五周年を迎え、戦前後の全国的な学校改革で「転換」「統合」などの災厄から本校は免れ、以前の姿で残存できるとのお祝いを含め同窓生が集う場所を具体化する際に、いくつかの候補地（齊藤軍八郎元校長宅地跡や赤間町の下関会館や元下関市民会館二階など）が挙げられた結果、現在の物件となったようです。

購入価格は、当時の金額で実に百四十万円（諸経費を含めると約二百二十万円）で、すべて同窓生の寄付で賄った（詳細は下商七十年史に掲載）もので、昭和十年に

新築されたものですが、市内一流の木材業者が相当用材を吟味しておられ、築後八十年を越えた現在も幾らかの手直しをされながらもしっかりとした佇まいです。参

考までに、元市長松井借助氏は、昭和六年一月から昭和二十一年二月までの実に十五年一カ月もの間に市長の要職を担当され、歴代の市長のうちでも長く素晴らしい功績のあった方で、昭和二十四年六月にご逝去されましたが、ご子息は市外に在住されておられ邸宅も不用となり本会が購入した経緯があるようです。

同窓会館の部屋の名称は、何と「仁の間」「義の間」...となっており、いかにも本校の精神を表象しているのです。さらに、「下商同窓物故者精進位（新会・十和会・五十会・知新会・十三会・七寿会）の共同で京都の有名仏具屋で製作」と刻んだ金箔の見事な位牌が「礼の間」に祭られ、その前には校章入りの香炉（八昭会寄贈）と西本願寺老僧鐘の掛け軸（昭和十六年卒稲田清彦氏寄贈）

があり、現在の管理人西山伸一氏（昭和五十三年卒）ご夫妻によって大切に管理・回向されています。以前は、新入会員歓迎会を毎年卒業前に開催して食事を共にして卒業の祝福と新会員としての歓迎と母校・同窓会に対する心構えを説いたり、部活動等の合宿で使用

（二階にも三部屋）されたりしていましたが、現在は同期会や同窓会役員会や他の団体（本校以外の卒業生の会合も利用可）が利用されておられます。特に、河豚料理には大好評で、毎年その季節には、予約（TEL083・2222・0075）が必要で

す。一般社団法人下商同窓会が管理・運営していますが、県内の公立高校でこのような同窓会館

といった財産を保有しているのは、県立下松工業高校と本校のみです。いずれも一般社団法人に移行して会員の方々が大切にされておられます。本会館は、素晴らしい見晴らしの良いところですから卒業して同期会などで是非利用されてみて下さい。



日和山同窓会館